

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2276100316		
法人名	特定非営利活動法人しおさい		
事業所名	グループホームしおさいの家		
所在地	静岡県御前崎市池新田7449-1		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町村受理日	平成30年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2276100316-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2276100316-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年1月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・認知症の進行や高齢化に伴い、利用者様にお手伝いしていただけることが少なくなりましたが、少しでも利用者様と一緒にやるように努力しています。また一つ一つの支援に時間と手間を取るようになってきましたが、利用者それぞれに応じた対応を行っています。昔ながらの伝統行事も実施しています。  
 ・健康管理として、看護師と連携のもと訪問診療や訪問歯科も導入しています。脚力維持にも力を入れており、歩行・足踏み・自転車こぎは日常的に実施しています。食事にもバランスや食べ易さ、また季節を感じてもらえるよう、配慮して提供しています。入浴においても個浴で

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ハーモニカ、紙芝居、カラオケ、オカリナ、合唱と地域のボランティアが毎月訪れ、傘踊りは曲の度に衣装も替えるサービスで利用者も大喜びしています。92歳の書道の先生は90歳まで原付で通ってくれましたが、現在は職員が送迎をしています。また処遇改善加算に「誰が見てもわかる評価基準を使って評価しなさい〜」とあるため、介護プロフェッショナルキャリア段位制度の評価講習にも参加してアセッサーとして認定されたり、口腔内の吸痰吸引、鼻腔内の吸痰吸引、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養における認定特定行為業務従事者にも管理者が成っていて、「少しでも前進を」との想いがある事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

静岡県(グループホームしおさいの家)  
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢化と認知症の進行により理念の実践が一部の人、あるいは一部の事項に限られて来た傾向にある。しかし利用者は各々のペースでゆったりと暮らしている。職員もそのペースを尊重している	「自信を取り戻して 普通の生活ができるよう支援します！」との理念は「高齢化、重度化」に伴い全員とはいかず、茶碗拭きの家事リハビリや洗濯干しは限られた人のみとなっています。	会議の場で理念の実践について振り返る時間があることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報誌を地域の回覧板に入れてもらう事、地域の清掃等に参加することは継続している。従来より図書館やスーパーに出かけているが、一部利用者に限られてきた。	市の防災訓練には2名の利用者が参加していて、地域清掃等には職員が出ています。併設のデイサービスの縁で毎年朝顔の鉢が届いたり、利用者の家宅の藤の花を見学したりと関係継続があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の会合や市内の施設系交流会にも参加している。また、市内の多職種連携会議等にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し状況を報告している。季節ごとに話題になることは毎年継続しており、防災上に関しては、地域の協力をお願いしている。	議事内容を予め用意するとともに「しおさい通信」を配り、事故報告も丁寧におこなっています。行政、地域のほか、理事長や副理事、監事と顔を揃え、NPO法人ならではのメンバーで運営されています。	議事内容のシートに出席者名を入れ、出欠席の記録が同時にとれるようにすると、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも毎回参加をしていただき報告するとともに、指導を仰いでいる。また何かあれば市役所に訪問し相談している。	御前崎市高齢者支援課からは同じ職員が運営推進会議に毎回必ず出席くださり、運推会議が事業所の負担にならないように配慮した意見ももらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の宣言をしており、全職員認識しており、身体拘束はしていない。神奈川での事件後夜間は玄関等の施錠はしている。(指導あり)	地域の文化・風習としても鍵をかけることはなく自由に出入り可能な環境ですが、独りで出てしまう人はいません。現在安全柵を外して転び落ちてしまうリスクをもつ利用者がいますが、拘束をせずとも職員の見守りを以て此処での暮らしが続いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対し認識の甘い職員がおり、注意をし自制を促した。他の職員は虐待に対し充分認識理解をし行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用して利用者があり、日常的に後見人と連絡を取り合っている。しかしその対応には一部不満あり。(手術が必要時であっても病院に来ていただけず同意書にサインが頂けずこちらより出向いている)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書他丁寧に説明し、質問にも応じ理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表や地域の民生委員にも参加いただき意見を述べてもらっている。また意見箱も設置している。また支払い時にも来所いただき意見等をお伺いしている。	「しおさい通信」に個別にコメントをつけて家族に発送しています。成年後見人がつく人や認定更新のみの来訪という家族もありますが、大抵は毎月の支払で顔を見せてくれていて、そこで報連相が叶っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや、週間ミーティングを設け、職員に希望等を聞いたり言ったりしてもらう機会を設けている	日、週のミーティングの他、夏季以外は水曜の入浴がないため会議に置き換えています。食事でのエプロン使用者が増えたことで、キッチン類専用の洗濯機購入に至った件もそこから生まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最低賃金等が改正された時等パート賃金の改訂等を適宜行っている。また介護職員処遇改善加算も実施し、正職員・パート職員の差別無く職員に還元している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福祉事業所要件教育研修によりすべての職員に研修を実施している。また社協主催の初任者研修やアセッサー資格取得研修にも参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の施設系研修や多職種研修にも参加し同業者との交流機会やサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントやフェースシート等により利用者をよく理解し、生活の場面場面で直接聞いたり推察し、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今現在の様子や、以前の生活等をお伺いし、利用者家族ともに不安のないよう要望希望に添うようにしており、毎月短文ではあるが近況もお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	看護師との連携のもと、健康面では訪問診療や訪問歯科も導入している。また職員間での情報も連絡帳を介し共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入浴中の1対1の関係や会話の中のふとした一言や行動をを大切に、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日や敬老の日に寄せてくれる言葉や支払い時に話される事柄、またこちらよりお知らせした事柄に対する反応を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰ったり、墓参りに行ったり、家族や馴染みの方が訪ねてくれたり、特別な制限等は設けていない。	正月やお盆に自宅に戻ったり、墓参りに出かけたり、毎週土曜日に本人を外に連れ出してくれる家族もいます。面会時間は制限はなく、信心する宗教の仲間も訪れています。	年賀状は本人がもう書けないという理由で返信できていないとのことですが、野菜判子等を活用し、本人ができる範囲で支援していくことを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	車椅子を押してくれたり、手をつないで歩いてもらったり、見守りをしてくれたり等、日常的に行なえるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅の藤の花の季節には互いに連絡を取り合い、毎年訪問させて頂く関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設ケアマネ兼介護職員を配置し、かつ職員ミーティング等から上がってくる情報を合わせ、一人一人の思いの把握に努めている。	職員は連絡帳と介護支援専門員の口頭指示を介して利用者を把握、共有しています。また袋井様式と呼んでいるアセスメントシートは詳細な構成で、利用者の情報整理に役立っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からご家族・兄弟姉妹等の様子、元気な頃の仕事や趣味、友人関係、また入所に至る様子等、出来るだけ細かく具体的エピソード等も交えお聞きし、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で確認した各々の職員の情報を、毎日のミーティングや、週間ミーティングの中で報告し合い、共有化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居宅サービス計画から作ったケアチェック表の実施状況よりモニタリングし、週間ミーティング等で検討し適宜家族も交え、現状に合わせて改善を目標に設定した計画を作成している。	介護計画書2表を反映したケアチェック表があり、モニタリングが日々おこなわれています。更新ではサービス担当者会議を必ず開催して、その時は遠方の家族も席に着いてもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース録やケアチェック表に記載し、週間ミーティングやケアマネのPDCAにより適宜更新や見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズが多様になり、家族、職員や看護師付き添いによる受診や協力医(主治医)の往診、訪問診療、訪問歯科等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内外のボランティアによる芸能等も提供して頂き、短い時間ながら豊かな感性を維持し楽しい生活の継続を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、職員や看護師付き添いによる受診や協力医(主治医)の往診、訪問診療、訪問歯科等柔軟に対応している。	訪問診療を月1回おこなう医師も加わり、協力医は3つとなりました。原則家族が通院介助していますが、必要であれば看護師が情報を医師にメールしたり、同行することもあります。	緊急時対応、延命治療の有無についての取決書はありますが、毎年確認(更新)するよう期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制による看護師と、もう一人の看護師により、日常的医療相談や受薬・受診等を実施し、また連絡帳により看護師⇒介護職員間の指示・情報の共有化を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネや介護職員等が医療連携室と連携を取り情報交換や相談、早期退院に向けた環境作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度の実績はないがターミナルケアも実施している。、本人・家族の意向に沿い、家族・主治医・看護師・職員等でターミナル計画書を作成、ご同意の上実施している。	看取りをおこなう事業所として家族に説明しており、変化があった際には改めて確認をとっていますが、ここ2年は看取り実績はありません。所内研修もおこない、また3つの医院の内、2つとは運用合意も得ています。	新しく加わった協力医に「看取りに協力してもらえるか」確認する等、取り組みへの整備があることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等看護師の指導や、マニュアルに従って対応している。119番等の通報訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	津波浸水想定地区になっており、度々避難訓練を行ってお、り都度消防署にも実施報告書を提出している。地域にも協力をお願いしているが難しい状況と思われる。	通報訓練や外まで出る避難訓練をはじめ大半の訓練メニューを実施して、行政にも報告しています。「年2~3回はして欲しい」と消防署から示唆されている消火器訓練は未だ1回のみで実現していません。	「有事の飲料水が心配」とのことですので、早めに井戸水の水質検査と発電機の設置検討があることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保持は職員全員が常に頭に置き対応している。	資格のない新人職員が自然にパーソン・セントラード・ケアができており、長い経験のある管理者が反省するほどで、皆が見習える人材が入ってきたことは本件への向上に期待が膨らみます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での表現が出来ない利用者もおり、適宜ジェスチャー、開かれた質問、閉ざされた質問を交え、自己決定を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間や、食事にかかる時間、入浴時間、トイレの時間、休息の時間等々その人のペースに合わせて実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装等自分で選択できる利用者にはご自分で決めて頂き、決めきれない方には複数の中から気に入ったものを選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、切ったり、片付け等出来る事は一緒にやっています。席のすぐ横で調理しているので食事前より匂い等で食欲をそそり、また個別対応で食器、盛り付け等を変えている。	昼食は併設のデイサービスと同じ献立ということもあって、皿数も増えボリューム満点で、準備も出来る人は手伝っています。「日曜日のランチはカレー」のほか、時節行事メニューも実施しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事(粥、刻み、とろみ対応、箸、スプーン、、小鉢、水分量、全体量等)を提供している。また、摂食速度や嚥下状態にも気を配り見守り、適宜介助もやっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療により常に口腔の状況を把握し、毎日の歯磨きから個別対応を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、各々のペースで1名を除きトイレで対応している。	一人ひとり日常生活のチェック表(排泄・食事等)があり、職員が都度記録しています。大抵はデータで把握ができますが、排尿パターンがまったく掴めない人が1名いて、ねばり強く経過観察を継続中です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い野菜や果物、海藻類等を摂り、排便状況を常に把握し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴を実施。心身状況に合わせて半身浴等、また湯船につかっている時間も個別対応している。季節の行事にも対応し柚子や菖蒲湯等も実施している。足浴も実施している。	リクライニングの車いすを使う人にも湯船に浸かってもらえるよう努めていて、お風呂に入ると気持ちよくなって長話する人もいます。夏季は週3日、常には2日の入浴を目安とし、茶殻を再利用しての足浴は毎日です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には朝方の日光浴も頻繁に実施している。就寝・起床も基本的には個々の自由に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概略の理解はあっても、全てを理解するには至っていない。服薬のサンプルを全員分作成し、服薬まちがいを防止している。介護職員の情報のもと看護師との連携により服薬量や時刻、また極力余分な服薬は避けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	適宜無理の無い役割を担ってもらい、環境を整えやっけて頂いている。常に感謝の言葉を掛け達成感を感じてもらっているものと思っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・図書館・コンサート・産業祭・祭典・花見・イルミネーション等々には出かけている。	市役所が駐車場の手前を車いす車輛専用にしてくれたおかげで、今年の産業祭は全員外出が叶いました。ADLが維持できている一部の人のみですが、地域のコンサート、イルミネーションのほか、芋ほりにも声をかけてもらって出かけています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際に使える人が少なくなりましたが、スーパーや商店に出かけ使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が月に一度、簡単ではあるが手紙を書き近況を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花等をテーブル上に置いていたが現在は常に置いて置くことができなくなってきている。食事は施設内に畑があり時期の野菜や季節の行事をすることにより季節感を感じてもらい、適宜音楽やコンサート映像も流れている。食事は利用者の横で作っている。	皆が寝静まった夜間帯にリビング掃除とされているので、掃いて拭いての手動でおこない、廊下と居室を日勤が朝方掃除しています。手すり拭きと加湿器に配慮し、来訪者のあつた日は特に丁寧に実施して清潔を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の部屋に自由に行き来したり、日向に行ったり思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や習字教室での作品等、本人家族の希望に沿って適宜対応している。	書道の得意な人のお部屋は壁一杯作品を貼り出したり、家族が造花などでアレンジくださる居室もあります。現在「ああしたい」「こうしたい」というのは2名のみで、他の人は職員が掃除のみ気遣っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示等分かり易い物を表示したり、洗面台の高さや、浴室のシャワーチェア等高さ、浴槽内のチェア等安全に使用できるようにしている。		